

郡山市

こおりやまし

郡山駅を一步出ると、大きな商業都市が現れる。「こおりやま広域圏」の中心市だ。



東北を代表する商工業都市

郡山市は福島県で最大、東北で第2の規模を持つ商業都市で、工業団地も増えている。東京からは新幹線で最短76分と人・モノ・情報が集まる中核市として栄えてきた。明治時代に猪苗代湖から農業用水の安積疎水を引き、工業用水と電力も確保、商工業都市として発展してきた。2024年には市制施行100周年を迎える。音楽が盛んな「楽都(がくと)郡山」としても有名。

移住支援

「こおりやま移住・定住ポータルサイト」で情報を発信。東京圏から移住された方に移住支援金(単身者60万円、2人以上の世帯100万円、18歳未満の世帯員1人当たり100万円加算)を支給。結婚に伴う新生活支援や就農支援なども行っている。

郡山市政策開発課 ☎024-924-2021
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/21/5854.html>



移住しました！
ツアーも企画
していきます



「D&DEPARTMENT FUKUSHIMA」で旅人に対応する山本さん。

山本阿子さん(26歳)
 大阪府出身。専門学校でデザインを学び、郡山駅にオープンしたショップの店長に就任。

郡山市に移住し、駅ナカのセレクトショップで 地元根づいた物産や旅の魅力を伝える！

本年6月、郡山駅の「こおりやま観光案内所」にオープンした「D&DEPARTMENT FUKUSHIMA」。張子人形や和紙など県内の物産を説明・販売しているスタッフはデザイナー目線で、作り手の熱い思いを伝えている。福島の旅の玄関口にこのようなセレクトショップができたのは画期的だ。

店長の山本さんは地域に根差した活動をしている郡山のデザイン会社に就職。ショップの運営を任されることになった。

「こちらから作り手に会いに行くツアーも企画していきます」と山本さん。郡山らしい旅のスタイルを提案する拠点にもなりそうだ。



趣味は登山。余裕ができれば磐梯山にも登りたいと思っているそうだ。

須賀川市

すかがわし



国指定名勝の牡丹園や ウルトラヒーローのいる街並みが有名

郡山市の南隣に位置し、玉川村とともに福島空港が所在する空の玄関口でもある。観光では全国の牡丹園で唯一の国指定名勝の「須賀川牡丹園」、毎年11月に行われる火祭り「松明(たいまつ)あかし」が有名。また、特撮の神様として知られる円谷英二監督の出身地で、「ウルトラマン」と特撮文化を活かしたまちづくりを実施。夏秋の岩瀬きゅうりの一大生産地としても知られる。

移住支援

須賀川市移住・定住ポータルサイト「すかがわさ、来てみねがい」では、移住者の方にインタビューした動画「だから、須賀川市民になりました!」を公開。また、空き家バンクのほか、県外からの移住者に対する住宅取得支援(最大400万円)や、新規就農者支援、創業者支援など、幅広い情報を発信している。

須賀川市企画政策課 ☎0248-88-9131
<https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/ijyu/>



空き家の調査や案内が主な仕事。市が民間企業と協定して空き家バンクを運営している。

駅前から市内中心部に向かう通りには、ウルトラヒーローのモニュメントが並ぶ。

移住しました！
空き家バンクを
運営



市の地域おこし協力隊として 空き家バンクの運営などを担当

福島県出身の奥さんとの結婚を機に、2022年3月に福島県へ移住した宇佐美さん。奥さんの実家のある福島県での生活を考えていたところ、以前から関心のあった空き家バンク業務の地域おこし協力隊を須賀川市で募集していることを知り、着任した。「不動産の仕事も学びたいと思っていたので、空き家バンクの運営という仕事は希望にぴったり。主に物件の調査や内覧、問い合わせの対応などを行っています」と話す。

福島県のことをまだよく知らないの、休日は地元で詳しい奥さんとともに観光地やお店巡りなどをし、「ふくしまぐらし」を満喫している。

宇佐美 慈さん(33歳)
 埼玉県出身。栃木県で地域おこし協力隊を経験し、棚倉町出身の奥さんとの結婚を機に移住。



奥さんとは市内のカフェなどにもよく出かける。